

われ、警戒地点に行きました。

役員と消防団員が集合した時には、国道429号が川のように、携帯はa u以外使えず、市役所とは全く連絡がつかませんでした。

災害対策本部を置いたのは、消防の詰所に役員と消防団員が集合して情報を共有するため、わかつたことをA3の紙に書いて、次々にベニヤ板に貼り付けていったことがきっかけです。



全てのニーズがここに集約 ～上岸田災害対策本部～

役員4名が調査に回り、10日の朝10時ごろまでには、大体の被害状況を把握しました。その調

査でわかつたことも同じようにベニヤ板に貼りました。住民の情報共有としてのこの場所が災害対策本部となったわけです。

ボランティアには 本当に感謝しています

鶴崎 お話を伺い、今回の災害で安心の拠り所となつたのが「地域のささえあい」であつたことがよくわかりました。

では次に、ボランティアと被災をされた方との関係はいかがだつたでしょうか。

山本 田井では11日から17日まで毎日ボランティアに入っていたきました。来ていただいた方には、本当に頭が下がる思いでした。一日の作業の終わりに心からのお礼を申し上げていたことを思い出します。

また地区の住民が10日と14日に動いてくれたので、自分の地域はすばらしいなと感じました。行政にはボランティアに甘えるのではなく、被害が起きないよう対策を立ててもらいたいと思います。



左から鶴崎会長、山本さん、山木さん、秋武さん

山木 10日の朝を迎えて、被害にあわれた家の人は、何から手をつければいいのかわからないような状況でした。「人手がいるな」と思ったときに、社協からボランティアが入るという連絡がありました。

被害の大きかつた所からでしたが、その家の人は手を合わせたい気持ちだつたと言われていました。ボランティアの人は弁当も飲む水も自分持ちで、泥だらけになつて暑い中頑張つて下さいました。

今回の災害を通じて、ボランティアが大きな意味をもつ活動で、非常に身近なものに感じました。

秋武 上岸田は一番ボランティアの人に世話になつたと思つています。

道路状況が悪い中、最初のボランティアは11日の午後に養父市社協から来てくれました。「ようこそ来てくれたね」と聞いたところ、以前養父市が水害にあつた時に、助けてもらったことがありがたくて来させてもらったということでした。

お茶や食事はどうしようかと考えた時、社協の人から自治会は仕事の段取りだけ言ってもらつたらいいですと教えてもらいました。ありがたかつたですね。

今、被災地で 必要なことは？

鶴崎 今回の災害では、社協が災害救援マニュアルを作成し、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行っていたことがよかつたと思つています。

今後は市の防災担当課との連携を密にしながら、防災訓練には社協も参加する必要があると考えています。